

シェリングと現代キリスト教神学 - ティリッヒを中心に -

A : 内容

芦名 定道

- : 問題
- : ティリッヒのシェリング解釈
- : 神学的問いとしての「宗教史」
- : まとめ

B : ポイント

: 問題

1. ティリッヒ(1886 ~ 1965)

- 1910: 哲学学位論文(ブレスラウ大学) 哲学の講義資格、ベルリン市の奨学金
- 8/22: 「フィヒテにおける哲学的原理としての自由」という最初の講義
- 12: 神学学位論文(ハレ大学)・神学試験合格
- 12 ~ 14: 副説教師(ベルリン) / 14 ~ 18: 従軍牧師
- 19 ~ 24: ベルリン大学の私講師
- 24 ~ 25: マールブルク大学神学部教授
- 25 ~ 29: ドレスデン工科大学宗教・社会哲学教授
- 29 ~ 33: フランクフルト大学哲学教授

: ティリッヒのシェリング解釈

1 : ティリッヒにとってシェリングとは

実存主義との関連 - ヘーゲル批判の文脈 -

2. 狭義の実存主義と「広義の実存の哲学」 cf: 本質主義
3. 実存の哲学の発端としての後期シェリング(積極哲学)
「消極哲学 積極哲学」
4. シェリング哲学の基本動機 「消極哲学から積極哲学への内的思惟の展開」
5. 主意主義の系譜(HCT:487f.)、西洋の精神史の傍流(中世末期やルネサンスの神秘主義
・自然哲学 スコトゥス、ルター ベーメ ロマン主義 シェリング 生の哲学)
([1926:269 ~ 272])

2 : 後期シェリングの「宗教史」

6. シェリングに関する哲学学位論文(別紙)

7. 学位論文のポイント

シェリング解釈の視点 シェリング哲学を消極哲学と積極哲学を包括する思想の発展過程として統一的に捉える(発展史的研究)

ポテンツ論の展開とそれに対応した神論の発展(消極哲学 積極哲学)が、宗教史の構成(積極哲学の中心)の前提

- ・ポテンツ概念の展開: 初期 『自由論』 積極哲学
- ・神の内的な諸原理の展開 世界過程へ

- a: 神における諸原理の展開（実存する神と神の内的な自然・根底）
 - 非合理的意志、主観性の原理 客観性の原理、愛の意志
- b: 世界過程：矛盾の和解・神が人格になる過程
 - 創造1：自然過程（光の誕生）
 - 墮落：悪の現実化（誘惑＋決断）
 - 創造2：歴史的過程（精神の誕生）＝ 救済史 宗教史
 - 絶対的な前歴史的時間 神話過程
 - 啓示（ユダヤ教 基督教 哲学的宗教）

『自由論』と積極哲学との関係

神話過程の構成の特徴

三一的基本構造の反復・重層化によるポテンツの高まり（神話過程）

「第一時代・第二時代・第三時代＜第一期・第二期・第三期（エジプト/インド/ギリシア）＞」

神話過程の克服の諸形態 1: 神秘主義 2: 合理的過程 3: 啓示

合理的過程 文化・自律性の問題、世俗化

「神 - 人間 - 世界」の関係 「神秘主義と罪責意識」

人間の神経験・宗教経験における二つの基本的契機とその統合 歴史過程における解決

宗教史の構成の神学的意義について、ここで簡単にポイントをまとめておこう。

- 1) 宗教史 宗教の神学、宗教史の神学 ティリッヒ、パネンベルク
- 2) 神話評価の再検討の要求 非神話論化から神話の積極的解釈か？
- 3) 墮落・罪の現実性・普遍性の問題
 - a: 墮落 = 超歴史的事実・歴史の前提 人間存在の両極性（諸ポテンツの抗争）
 - b: 墮落 = 原事実 論理的演繹不可能 経験的な事実から把握される

： 神学的問いとしての「宗教史」

ティリッヒにおける「宗教史」

8. 1924年の『教会と文化』

sacramentalな精神状況 / 神政（両義的な sacramentalな精神状況への聖なるものによる批判） / 自律の成立 分裂・対立 / 自律的社会の空洞化 / 神秘主義 空洞化した諸形式のトータルな否定（聖俗と問わず放棄する） / 新しい神律 = 現代的な課題

[ティリッヒの宗教論・宗教史]

「原初的神律・統一（ sacramentalなデーモン）

神政と自律の分化・批判意識の成立（神話・祭儀・権威への合理的批判）

自律と他律の緊張・対立・分裂

自律の空虚化・新しいデーモンの侵入（現代の危機）

神律の待望」

9. 学位論文との対応と相違

- ・ 諸原理の動的連関 歴史過程と人間の自由
- ・ 意味形式への精神の志向性と意味根拠（根底・深淵）への精神の志向性の関係へ

「宗教史」の意義

10. 宗教史 宗教類型論 (サクラメンタルな類型、神秘主義的類型、倫理的類型)
宗教比較論 cf: 宗教現象学 (存在の聖性と当為の聖性 『信仰の動態』) 11.

神話の神学的な意義

a: 神話とは

- ・意識の未分化状態 意識の分化
本来的な神話的要素・科学的要素・宗教的要素
- ・ 1) 諸ポテンツの展開は人間の意識において生成する神統記的過程である。
諸民族の継起的な神話はこの現実の諸契機の展開の表現
人間の意識を規定する諸原理と意識の起源・展開過程の理解へ
- 2) 神話過程の展開は人間意識の展開過程の相関する
- 3) 神話は人間の意識の展開過程の生成する現場であり、宗教経験も神学も同じ
展開過程の中にある。 神話的表象の生成消滅過程は重大な意味を持つ。

b: 神話と啓示

啓示：人格性・精神のポテンツに高まった神の行為 神話過程の完成・終局・克服

：まとめ

12. ポスト・モダンの神学 モダンとは
近代ドイツのキリスト教思想の意義
13. 哲学と神学の諸伝統の動的で錯綜した影響関係
14. 「シェリング ティリッヒ」は典型的な事例

C : 文献

- Paul Tillich: Main Works/Hauptwerke 1 ~ 6 (MW)
Systematic Theology vol. 1 ~ 3 (1951/1957/1963)
A History of Christian Thought (1953/1963), Ed. by Carl E. Braaten
- 1910: Die Religionsgeschichtliche Konstruktion in Schellings positiver
Philosophie, ihre Voraussetzungen und Prinzipien. Breslau
- 12: Mystik und Schuldbewußtsein in Schellings philosophischer Entwicklung (MW.1)
- 24: Kirche und Kultur (MW.2)
- 26: Kairos und Logos (MW.1)
- 27: Christentum und Idealismus (GW. XII)
- 28: Das religiöse Symbol (MW.4)
- 30: Mythos und Mythologie (MW.4)
- 31/32: Vorlesung über Hegel, hrsg. v. Erdmann Sturm
(Ergänzungs- und Nachläßbände zu den Gesammelten Werken VIII 1995)
- 36: On the Boundary, in: The Interpretation of History
- 44: Existential Philosophy (MW.1)
- 52: Autobiographical Reflections, in: The Theology of Paul Tillich
- 55: Schelling und die Anfänge des existenzialistischen Protestes (MW.1)

Tillich und Schelling

1: Mokrosch, Reinhold

1976: Theologische Freiheitsphilosophie. Metaphysik, Freiheit und Ethik in der philosophischen Entwicklung Schellings und in den Anfängen Tillichs. Frankfurt a. M.

2: Wenz, Gunther

1979: Subjekt und Sein. Die Entwicklung der Theologie Paul Tillichs. München

3: Stone, Jerome Arthur

1978: Tillich and Schelling's Later Philosophy, in: John J. Carey (ed.), Kairos and Logos. Macon

4: Jahr, Hannelore

1989: Theologie als Gestaltmetaphysik. Die Vermittlung von Gott und Welt im Frühwerk Paul Tillichs. Berlin/New York

5: 芦名定道

1994: 『ティリッヒと現代宗教論』(北樹出版)

1995: 『ティリッヒと弁証神学の挑戦』(創文社)

Schelling

Schellings Werke, hrsg. v. Manfred Schröter (SW)

Philosophische Untersuchungen über das Wesendermenschliche Freiheit und die damit zusammenhängenden Gegenstände (VII)

Einleitung in die Philosophie der Mythologie

Erstes Buch: Historisch-kritische Einleitung in die Philosophie der Mythologie (XI)

Zweites Buch: Philosophische Einleitung in die Philosophie der Mythologie oder Darstellung der reinrationalen Philosophie (XI)

Philosophie der Mythologie,

Erstes Buch: Der Monotheismus (XII)

Zweites Buch: Die Mythologie (XII)

Einleitung in die Philosophie der Offenbarung oder Begründung der positiven Philosophie (XIII)

Philosophie der Offenbarung,

Zweites Buch: Erster Teil (XIII)

Drittes Buch: Der Philosophie der Offenbarung, Zweiter Teil (XIV)

Paulus-Nachschrift: Philosophie der Offenbarung 1841/42, hrsg. v. M. Frank Suhrkamp